寄せ太鼓

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館
運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号（〒807-1261）
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

みんなで踊ろう宿場おどり 第16回 宿場まつり

今年もイベント "でんこもり"

■とき 11月2日（第一日曜）
■ところ 長崎街道「木屋瀬宿」

「みんなで踊ろう宿場おどり」のキャッチフレーズで恒例の《筑前木屋瀬宿場まつり》が今年は十一月二日に執り行われます。

その昔　長崎街道　筑前六宿の宿駅であった木屋瀬の歴史と文化の薫る「まちづくり」所謂　地域の歴史的文化財産を活かした「地域の活性化」の推進を趣旨とする「北九州市八幡西区役所まちづくり推進課」の【長崎街道黒崎・木屋瀬キャンペーン】の一環事業として官民一体の形式で始められたもので　今年で第十六回を迎えます。

つきましては　今年も開催趣旨をよく踏まえ地域全体で「筑前木屋瀬宿場まつり」に取り組む所存でございますので　地域住民の皆様にはご協力の程　宜しくお願い申し上げます。

企画委員長　藤　嘉量

みちの郷土史料館第32回企画展
町並み資料館シリーズ
第10弾 井上家展
を開催します。
平成20年 11月8日(土)～12月14日(日)

年に一度の宿場まつりの日にはゆっくりご覧になれない方のために、旧家に伝わる品物を史料館でお借りして展示する企画です。

今回は、木屋瀬で質屋さんをされていた、下町の井上家をご紹介します。この機会にじっくりとご観覧ください。

長崎街道木屋瀬宿に休泊した大名や長崎奉行 其の五

木屋瀬みちの郷土史料保存会　松尾　良美

木屋瀬宿の本陣に宿泊した福岡藩主や長崎奉行について、四回にわたって記した。

今年のNHK大河ドラマ「篤姫」は視聴率が高く好評であるので、「篤姫」と関係が深い薩摩藩島津の殿様が木屋瀬宿に休泊した古文書が残っていないかと思って調べた。

それが保存されていた。表題に『薩州宰相様、九州路下宿賦帳』と記載され、年代は『安政四年巳正月』であるので、藩主一行が参勤交代で帰国途上に黒崎宿より木屋瀬宿に宿泊したのである。この時の藩主は島津斉彬で篤姫の義父であって、前年の安政三年十二月に篤姫は、近衛家の養女を経て十三代将軍徳川家定に嫁いでいる。

この大河ドラマの主人公に扮する宮崎あおいが演じる「篤姫」の時代背景は、幕末の嘉永・安政年間で正に激動の時代で、国内外ともに非常事態の時であった。

異国船が頻繁に日本近海に出没して、測量したり食料や燃料の薪炭を求めて通商を迫り、最終的には嘉永六年六月のペリーの来航。病弱な将軍家定の継嗣問題で一橋慶喜を推す派と紀州家の徳川家茂を担ぐ派との軋轢で幕府や有力大名が二分された有様だった。

英明で西洋の文化や技術を積極的に取り入れていた島津斉彬は、幕政改革をめざす方策として一門の和泉島津家の姫を養女として江戸屋敷に入れ、将軍家定の御台所に輿入れさせた。

さて、九州路の木屋瀬宿に入ったのが安政四年正月であり、一行の惣人数三百九拾弐人と宿泊箇所六拾壱軒と書かれている。

表題の頁をめくると次の記述であった。

一幕宿壱軒　得能彦左衛門
一乗物　一丁　一具足箱　一ツ
一両懸　弐荷　一竹馬　弐荷
一合羽籠弐荷　一長持　壱棹
一馬荷　三駄　改人数　拾弐人
一同　宿壱軒　有馬含人
一乗物　壱丁　一具足箱　壱指
一両懸　弐荷　一合羽籠　弐荷
一長持　壱棹　一竹馬　弐荷
一馬荷　三駄　改人数　拾弐人

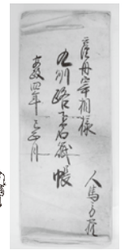
記名された藩士と同宿した部下との人数が改人数を指し、乗物は引戸付きの駕籠であって、下宿賦帳には七名の藩士が駕籠を持ち込んでいるので重臣である。また、書き始めの「幕宿」の意味は、入口に幕が張ってある宿のことである。具足箱は元来鎧兜を納めていたが、幕末では陣羽織や籠手・臑当等の武具を入れていたようだ。

桐油紙で作った雨具や笠を入れた籠が合羽籠で両懸とは旅行用の行李の一つで天秤棒の両端に鋏箱を括りつけて肩に担いだ。竹馬とは、荷を四つ脚の竹籠か箱に掛け、天秤棒で担う。馬の背に振り分けの荷物が、三頭分で三駄というわけである。

以上のように八十一名の藩士が紙十七枚の両面に、荷物の個数と共に書き連ねてある。

三枚目に「肝付壮衛門」という名を見付け、ドラマ「篤姫」に登場し島津斉彬から、色の違ったお守りを貰った篤姫と尚五郎で、肝付尚五郎（後の小松帯刀）と姓が同じなので想像逞しくして、両者の関係に興味を持った。

九州路の木屋瀬宿を宿泊して、鹿児島に帰った島津斉彬は翌年の安政五年七月十六日に、天保山において練兵の指揮後、急病で五十一歳で死去している。



休泊した時の宿帳

平成20年度 木屋瀬祇園宿場祭 各当番町より

平成20年7月12日（土）・13日（日）

● 一番山笠　当番町：感田町 ●

木屋瀬祇園祭りは、数百年の歴史と伝統を踏まえた行事として、今年も華やかに7月12日・13日の両日行われました。

当日は出仕者の皆さんには絶大なるご尽力を賜り有り難く感謝いたしております。今年は梅雨明けが早くとても暑い二日間となり、昼間の巡航など心配しておりましたが、子供たちは暑さに負けず頑張ってくれました。また、出仕者の皆さんもそれぞれの役割の中で大変だったことと思います。ご苦労様でした。

当番町として伝統を守りぬけたと嬉しく思っています。裏方として朝早くから夜遅くまで頑張っていただいた婦人部の皆さんには心から感謝いたしております。次は改盛町町内会へ当番町の看板をお渡しし、更なるご発展を心から願っております。（感田町　宮近）

● 二番山笠　当番町：新地町 ●

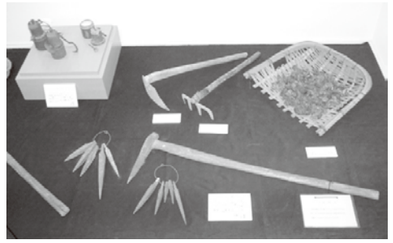
平成20年度祇園祭り本町六町二番山笠当番町としての重責を果たすことが出来ました事に心からお礼申し上げます。

6月初旬よりの諸行事も多数の方々の熱き思い、御協力の基に終え天候に恵まれた12・13日でした。町内・町外の皆様、諸団体の皆様、おかげさまで恙無く巡行・奉納・宮入と執り行えた事に感謝致します。ありがとうございました。

伝統なる祇園祭、さらなる発展を祈念致します。（新町　麻生）

「木屋瀬と石炭」展が終了しました

平成20年7月19日（土）～8月31日（日）



史料館収蔵品と、回覧板や聞き込みで旧木屋瀬町内の皆様からご提供いただいた品物や体験談をもとに、古文書、炭坑や川ひらたの写真、絵画、鉱区図、野面線時刻表、石炭標本、採炭道具、練炭七輪、豆炭あんかなどを展示しました。石炭を知らない子どもたちや、当時を懐かしむ大人たちをはじめ、旧産炭地の専門家や元炭鉱マンの方々にもご来館いただき、関心の高さが窺えました。皆様のご協力、ご来館、誠に有難うございました。

子供たちの瞳に輝く星 たなばたまつり

八月七日恒例の七夕祭りがこやのせ座で行われました。五時半からそれぞれの願い事を書いた短冊を笹の葉に飾りつけ、7時より人形ボードヴィル・ドラによる人形劇が行われ大変好評でした。ボランティアの皆さんによるお食事で腹ごしらえをした後、八時からは星座の鑑賞会をしました。

こやのせ座の外壁にパソコン画像を投影し、今夜の星座と織姫彦星の位置と太陽系の説明をしました。その途中、北九州上空を国際宇宙ステーション（ISS）が太陽光を反射しながら、薄暮の空を北から南へと横切っていきました。約2分間の出来事でしたが、ISSが肉眼で確認できることに一同、歓声を上げ驚いていました。

「宇宙飛行士になりたい？」「宇宙飛行士になるにはどうすればいいと思う？」と子供たちに問いかけると、子供たちは目を輝かせていろんなことを語ってくれました。次第に空は暗くなり二台の望遠鏡を用いて月と木星の観察を行いました。上弦の月を望遠鏡で拡大しCCDカメラでPCに取り込み、こやのせ座の白壁に投影したので、直径約3メートルの巨大な月を同時に観察できました。

引き続き、木星とその惑星をかわるがわる観察しましたが、片目で物をのぞくという事に慣れていない子供も多く、焦点が会わなかったり、星が動いていたりそれぞれ苦労したようでした。

改善すべき点もあると思いますが百人近い参加者が同時に空を眺め同じ時間をすごす事ができとても有意義だったと思います。なかでも「アポロの月着陸をリアルタイムで経験している世代」が、月のクレーターを見た途端にかつての天文好き少年に戻っているのが印象的でした。次回は大人の鑑賞にも堪えうる観察会にすべく考案中です。

参加された子供達が宇宙の不思議や自然科学に興味を持つきっかけにこのイベントが育ってくれればと願っています。またすべての悩める人へ、広大な宇宙に比べれば、私達自身や私達を悩ませる問題のなんとちっぽけなことでしょう。宇宙を眺めることが、明日を生き抜く活力源になってほしいと思っています。

それが私の「きぼう」です。

木屋瀬天文同好会副会長　数住　宗貴

伝統の盆踊りを通じて 地域の輪を広げていく

今年も十三日に新町五町、本町六町の総踊り（木屋瀬宿記念館ひろば）で幕を開けた。午後七時に集合、一踊りして「こやのせ座運営部会より」恒例のかき氷をご馳走になり、一件目の初盆家へと二手に分かれて出発した。

新町五町では例年に比べ初盆家が十四軒と多かった。各町内会より初盆家の把握をして頂き、盆踊りの順序を世話人と決定した。その際、踊りの輪（庭）を如何に大きくする（踊り子を増やす）かを毎回悩んでいる。事前に練習を二日間行っているが参加者が少なく今後の課題だ。

お盆で里帰りをされた方や、日頃疎遠になっている旧友などと初盆家を順次廻る道程で昔話に花を咲かせたり、近況報告などを行いながら歩くのが良いと先輩に聞いた事がある。また、盆踊りのメロディーを聞くと自然に体が動くとも聞いた事がある。木屋瀬の伝統を後世に語り伝える為、色々な活動を通じて輪を広げていきたいと思う。

八月三十一日に反省会を木屋瀬宿記念館のボランティアルーム、広場を利用して行った。参加者全員（老若男女）に声をかけ、手作りのバーベキューで時間を忘れて盛り上がり、夏休み最後の日曜日を過ごした。

最後に初盆家におかれましては、踊り子にジュースやビール等の手厚い接待を頂き感謝致しております。

（山田　靖）

迫力満点の生演奏で会場が沸く

サマーカーニバル　第1回こやのせ座

ニューオリンズスタイルの編成でライブほか映画・テレビ・CM に活躍中である新進気鋭のジャズメンたち「ブラックボトムスブラスバンド」通称「BBBB」と　地元九州で現在活躍中の「デルタ・ド・キャバレー」・「呑トリオ」と云う錚々たるミュージシャン達に木屋瀬中学校吹奏楽部メンバーからなる「こやのせ座オールスターズ」が参加して〔第１回こやのせ座サマーカーニバル〕が８月２４日１４時より開催され２００名以上の観客が音楽の魅力に酔いしれました。

地元木屋瀬中学の生徒が金管楽器（ブラス）に接すること僅か２年余りでプロミュージシャンに負けじと真剣に演奏する姿に　子供達の持つ潜在能力の無限性を思い知ると共に教育の大切さと偉大性に深く感じ入った次第です。

村上大五郎先生並びにスタッフには　日々のご指導ご苦労さまです。

吹奏楽部のメンバーには　在学中で学び得る知識と経験が今後の永い人生に於ける糧となり誇りとなることを予言します。頑張って下さい。

こやのせ座運営部会長　柴田泰助

わたしの昔話

木屋瀬の人　伊藤小左衛門

【柴田豊廣遺稿集】より

伊藤小左衛門は木屋瀬の出身であり、福岡や長崎で活躍した大事業家であり、黒田藩の財政を掌るほどの巨万の富を築き上げた人でもある。但し当時国禁であった外国との密貿易をして、これが発覚し捕えられて一族郎党処刑されたと伝えられている。この大事件の噂は私の子供の頃まで語られていた。私はこの噂話を聞くたびに何だか判らないが、大きな大きな事だなと驚いていた。その噂を二ツ三ツあげて見よう。

●小左衛門は国が禁じている外国との密貿易をするため、その船が目立たぬようにその時々の空の色に合った帆を、いくつもいくつも用意していた、と。

●小左衛門は密貿易が発覚して捕えられた時、野面の八所神社に罪を軽くして下さいと祈願し、そのお礼に木屋瀬の家より八所神社まで、千両箱を飛び石のように敷きお礼詣りをいたします、千両箱奉納いたします、と。

●小左衛門は捕えられ連行される時、見送りの大群衆に向かい木屋瀬の者はいないかと大声で叫んだ。一人の男がおずおずと木屋瀬の者ですと進み出た。小左衛門は木屋瀬の者か、お前にこれをやろうと煙草入れを投げ与えた。純金製の豪華な物であった、と。

●小左衛門の子供二人博多の浜で打首になった。博多の人々はこの幼い二人を憐れみ神社を建立し今も祭られている、と。

又、昨年昭和五十九年十一月十四日の読売新聞は、「壱岐に隠し財宝三十億円、黒田藩の豪商が埋めた?」と大見出しを付けた長文の記事を発表している。この中から二ツ三ツあげて見よう。

●「長崎」江戸時代密貿易の親玉として巨万の富を築き捕えられて長崎で死刑になった黒田藩の豪商伊藤小左衛門が隠したと伝えられる。小判等約三十億円の財宝探しが近く長崎県壱岐で始められる。

●伊藤小左衛門は寛文年間朝鮮などの密貿易に暗躍、寛文七年に朝鮮に鉄砲・火薬、刀剣、よろい等の武器や武具を輸出したのが発覚し、長崎で一族郎党、九十人…百五十人と共に処刑された。

●鉄や金を商っていたので、自ら伊藤小判と呼ばれる貿易用小判を造っていた。

●密貿易人に金を投資する「投銀」をするほどの富と権勢を誇っていた。

●壱岐には小左衛門が商売繁盛を願って寄進した「小左衛門地蔵」も残っているが、この地蔵尊の東方に、小左衛門が処刑された際に部下が財宝を埋め目印にエノキを植えた。この事は島民で知らない人はいない、けれど傍らに稲荷神社もあり島民は「たたり」があるとして、誰も手を出さなかった。

ともあれ、これまで書いた事は、ただ巷の噂をあげたものに過ぎないが「寛文抜船（ばっせん）事件」と呼ばれ残されているほどの大事件であり、噂が噂を生み途方もなくエスカレートしたのだと思っている。こうした中で私は福岡市に永年、小左衛門の研究をされておられる福岡地方史家、白木康三先生がおられ、先生の福岡地方史談話会会報抜刷に、小左衛門の事を詳細に発表されている事を知った。この後は、白木康三先生の御了解を得れば談話会会報抜刷に基づいて起稿したいと思っている。

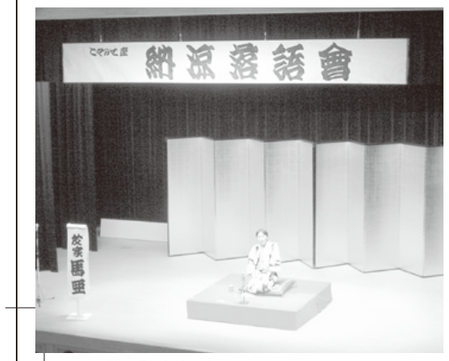
●小左衛門は本町の伊藤家の出身である事

●小左衛門は伊藤家より分家し、初代小左衛門と二代小左衛門との二代あり受刑者は二代目である事

●受刑者は百人位はあるが、全部が小左衛門の一族郎党ばかりではない事

等々を白木康三先生は詳細に発表されているので、現在伊藤家の分家伊藤勘次君と共に先生の御了解を得て稿をつづけたいと思っている。

笑って夏をお見送り　こやのせ座 納涼落語会



笑いの絶えない会場は大盛り上がり

〝暑さを笑いで吹き飛ばそう〟のキャッチフレーズで今や恒例となった〔こやのせ座納涼落語会〕が本年は八月三十日に開催され　こやのせ座は賑々しくも百五十人もの観客で大層な賑わいぶりでございました。

因みに　前座に福岡教育大学・下関市立大学・梅光学院大学の落語研究会　中入り後は福教大落研ＯＢで北九州教育委員会の粗忽屋鉄平（新森修二）・好色亭勘六（浦田一幸）・粗忽屋無笑（神代明）の三氏　真打ちが東大落研ＯＢで前北九州教育委員会学務部長の於家馬亜（佐藤弘毅氏）と云う毎度お馴染みの芸達者な面々が高座を務められました。

尚　於家馬亜（佐藤弘毅氏）に於かれましては　今回〔こやのせ座納涼落語会〕の為に　現在の勤務地・東京都より遠路遙々自費参加戴きましたことに心より感謝致します。

こやのせ座運営部会長　柴田泰助

シリーズ　筑前木屋瀬宿　神仏めぐり　第十四回　お地蔵さん巡り

お盆が過ぎ秋の気配が感じられる頃、木屋瀬宿内のお地蔵さん巡りをしました。赤いよだれかけを掛け可愛いお顔で、庶民の様々な願い事をかなえたり、病気を治したり、子供を授けたり、又、死んだ後も、あの世で我々を救って下さると言う、地蔵信仰のルーツを少し探って見ました。

お地蔵さんは、インドのバラモン教の神々の一人で農耕の女神として崇められていましたが、その後中国に渡り仏教、道教と融合し奈良時代に日本に伝来しました。しかし、当時の貴族社会では受け入れられず、鎌倉時代に入り専修念仏が盛んになるにつれ、六道輪廻（人は、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天界をめぐる）の仏教の考え方から、あの世の地獄の苦しみをお地蔵さんが身代わりとなり、人々の苦難を救ってくれるとして、地蔵信仰が庶民に爆発的に広まりました。その後、旅人や村の安全を守るとして街道筋等にも像立され、又、延命地蔵、とげ抜き地蔵、水子地蔵、将軍地蔵等が生まれました。

長徳寺の六地蔵（送り地蔵）

さて、木屋瀬新町の長徳寺を訪ねてみました。山門を入るとすぐ右方に水子地蔵菩薩が安置されています。左手に宝珠を戴き右手に錫杖を持った尊像です。水子や幼くして亡くなった子供を供養するとされています。その右側には、ピンピンコロリで浄土往生が成就するといわれる「ぽっくり地蔵」さんが鎮座されています。境内から墓地への入口に厳かな六地蔵が祀られています。頭部に五輪の宝塔を戴き六面に地蔵菩薩が彫られています。この像の下に江戸時代本堂改築の折大変貢献があった、國ヶ嶽兵助の遺体を埋葬したといわれる口伝があります。兵助は名前からして相撲取りで在ろうかと思いますが、國ヶ嶽兵助が実在の人物であることは、兵助の孫が明治時代に灯籠を須賀神社に献灯されているので間違いがないようです。民俗学によると、土葬の時代に墓地の入り口や、村境等に、六地蔵尊（送り地蔵）を安置する伝承が各地にあり、死者が六道に分かれていく場と考えられていました。木屋瀬もその様な風習があったのかも知れません。

次は、下町の永源寺を訪ねてみました。山門のそばに、お地蔵さんが立っておられます。嘉永7年（1855）の建立です。当時の永源寺の住職さん「越竜禅師」に、お顔がそっくりだったので、「越つあん地蔵」と村の人は呼んでいましたが、ある時大洪水で船が地蔵さんにぶつかり鼻が欠けてしまいました。その後は、村の人達は「鼻欠け地蔵」の愛称でも呼ぶようになりました。境内に入ると本堂の斜め前に、よだれかけを六枚かけ傘を被ったお地蔵さんがおられます。「まっくり地蔵さん」です。お地蔵さん前で、「まっくりかえる」と、子供の願いをかなえられ、無病息災で過ごす事が出来ると信じられ、今年も8月に地蔵盆として法要が行われました。

次に訪れたのが、改盛町の愛宕さんです。将軍地蔵さまを本尊として開基されたと伝えられています。火除けの仏で、火災の難を逃れるとして木屋瀬の人々の篤い信仰を集めた地蔵さんです。

最後に感田町の妙運寺を訪ねました。子宝に恵まれるとして、子安観音菩薩が安置されています。

お地蔵さんは、日本全国今もあちこちで庶民の篤い信仰を得ています。

見送りは地蔵ひとりや雁渡る

（本町　野口靖彦）